

平成27年度「熊本県がん相談機能向上に関するアンケート調査」結果報告書

1 調査の概要

(1) 調査目的

熊本県内のがん相談機能の現状を把握するとともに、課題・ニーズを抽出し、今後増加が見込まれる、がん患者様及びご家族に対する適正ながん情報や相談の場の提供が行われ、療養生活の質の維持向上を図る施策の検討を行うことを目的としています。

(2) 調査期間

平成28年2月1日～2月29日(1ヶ月間)

(3) 調査対象者

熊本県がん診療連携拠点病院内医療従事者(380名)

(4) 調査方法

記述は質問項目別に選択及び自由記載方式のアンケートを実施する。

各がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターへ郵送し、同センター各医療者へ配布。

回答は、委託会社に返信用封筒で郵送し、集計。

(5) 調査内容

がん相談等に関する現状把握、課題・ニーズの把握

詳細は、別添アンケート用紙を参照

(6) 回収結果

回答率80.2%(対象者380名中、回答者305名)

①拠点病院内医療従事者向

Q1.「アンケート回答者」についてお伺いします。

1)医療機関名

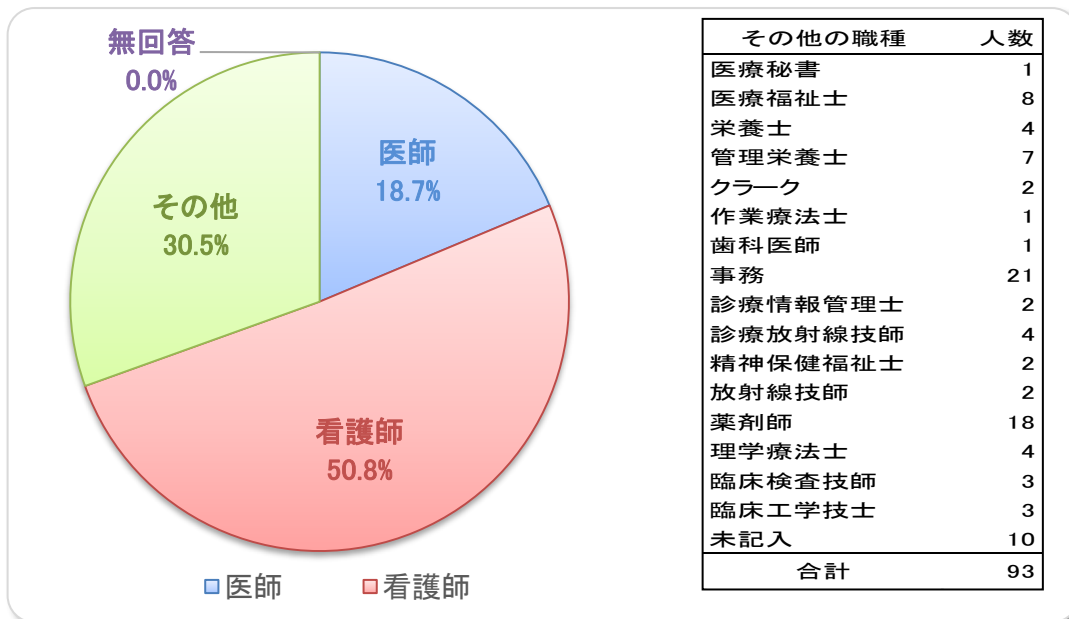
	サ ン プ ル 数
対 象	305
天草地域医療センター	20
天草中央総合病院	18
荒尾市民病院	17
熊本市民病院	17
熊本赤十字病院	20
熊本総合病院	17
熊本大学医学部附属病院	18
熊本地域医療センター	18
くまもと森都総合病院	20
熊本労災病院	16
国保水俣市立総合医療センター	20
国立病院機構熊本医療センター	16
国立病院機構熊本南病院	18
済生会熊本	21
高野病院	10
人吉医療センター	13
山鹿市民医療センター	18
熊本中央病院	8
合 計	305

①拠点病院内医療従事者向け

Q1.「アンケート回答者」についてお伺いします。

2)職種

「医師」が18.7%、「看護師」が50.8%、「その他」が30.5%であった。



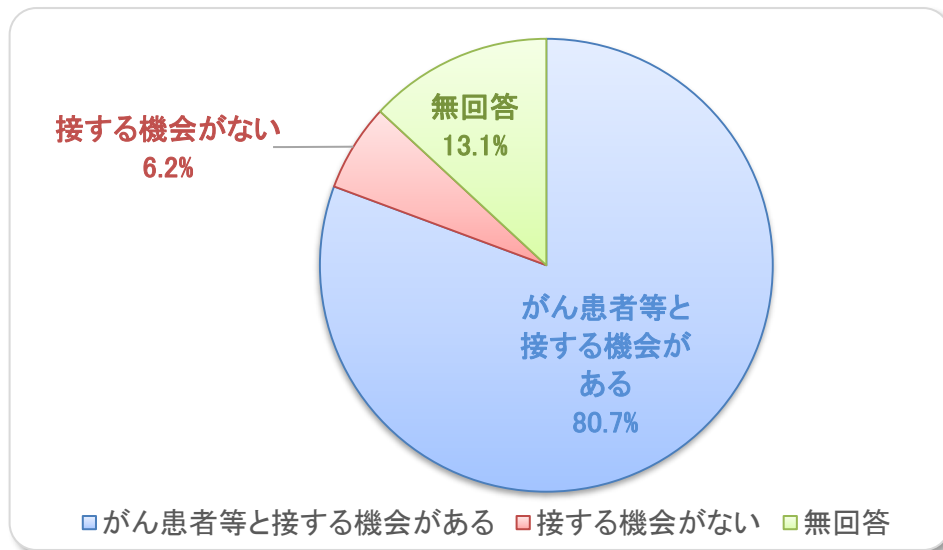
	サンプル数	医師	看護師	その他	無回答
対象	305	18.7%	50.8%	30.5%	0.0%
合計	305	57	155	93	0

①拠点病院内医療従事者向け

Q1.「アンケート回答者」についてお伺いします。

3)業務内容

「がん患者等と接する機会がある」が80.7%、「接する機会がない」が6.2%であった。



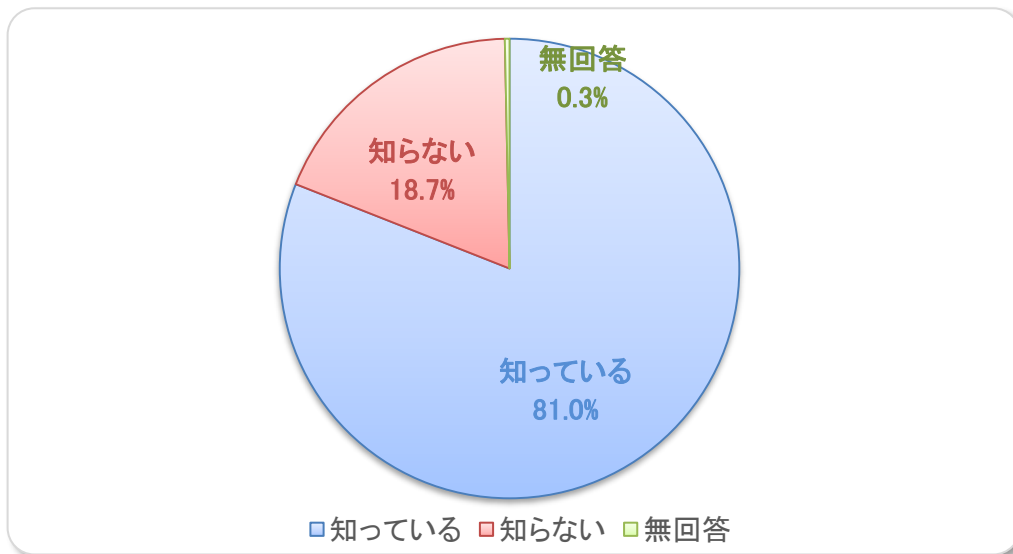
	サンプル数	がん患者等と接する機会がある	接する機会がない	無回答
対象	305	80.7%	6.2%	13.1%
合計	305	246	19	40

①拠点病院内医療従事者向け

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

1)がん相談支援センターを知っていますか。

「知っている」が81.0%、「知らない」が18.7%であった。



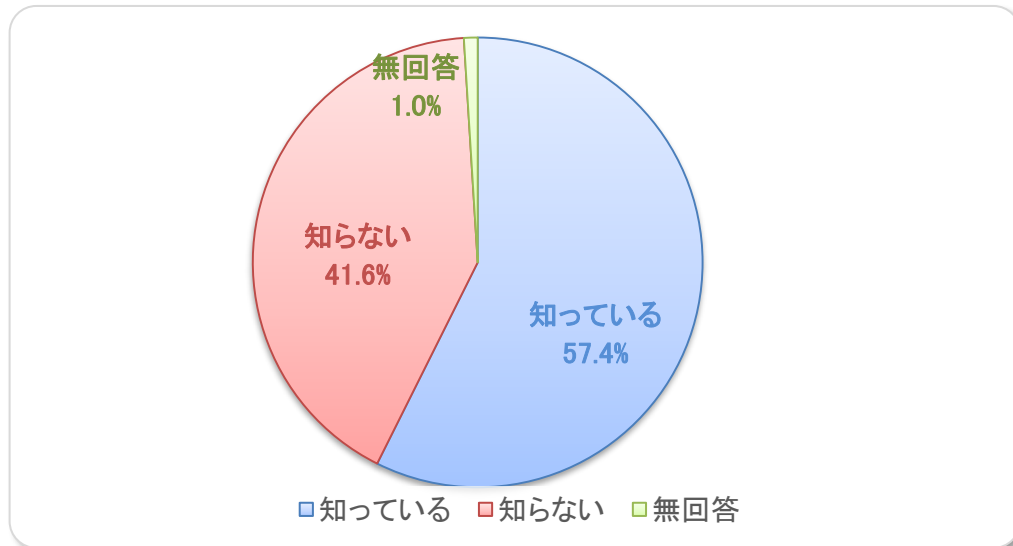
	サンプル数	知っている	知らない	無回答
対象	305	81.0%	18.7%	0.3%
合計	305	247	57	1

①拠点病院内医療従事者向け

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

2)がん相談支援センターの業務を知っていますか。

「知っている」が57.4%、「知らない」が41.6%であった。



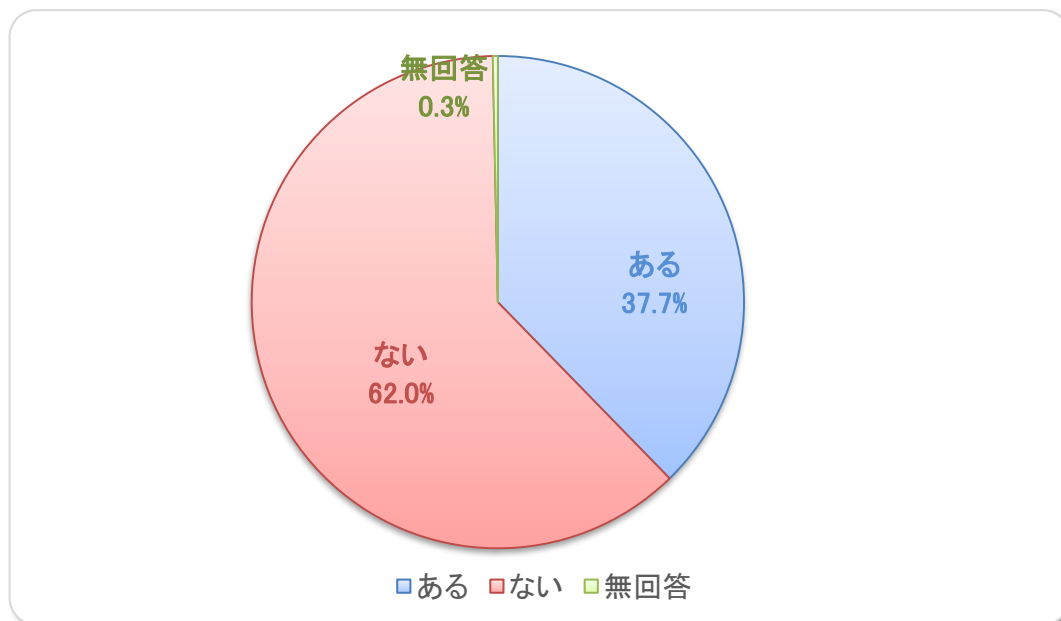
	サンプル数	知っている	知らない	無回答
対象	305	57.4%	41.6%	1.0%
合計	305	175	127	3

①拠点病院内医療従事者向け

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

3)がん相談支援センターと連携して、患者対応を行ったことがありますか。

「ある」が37.7%、「ない」が62.0%であった。



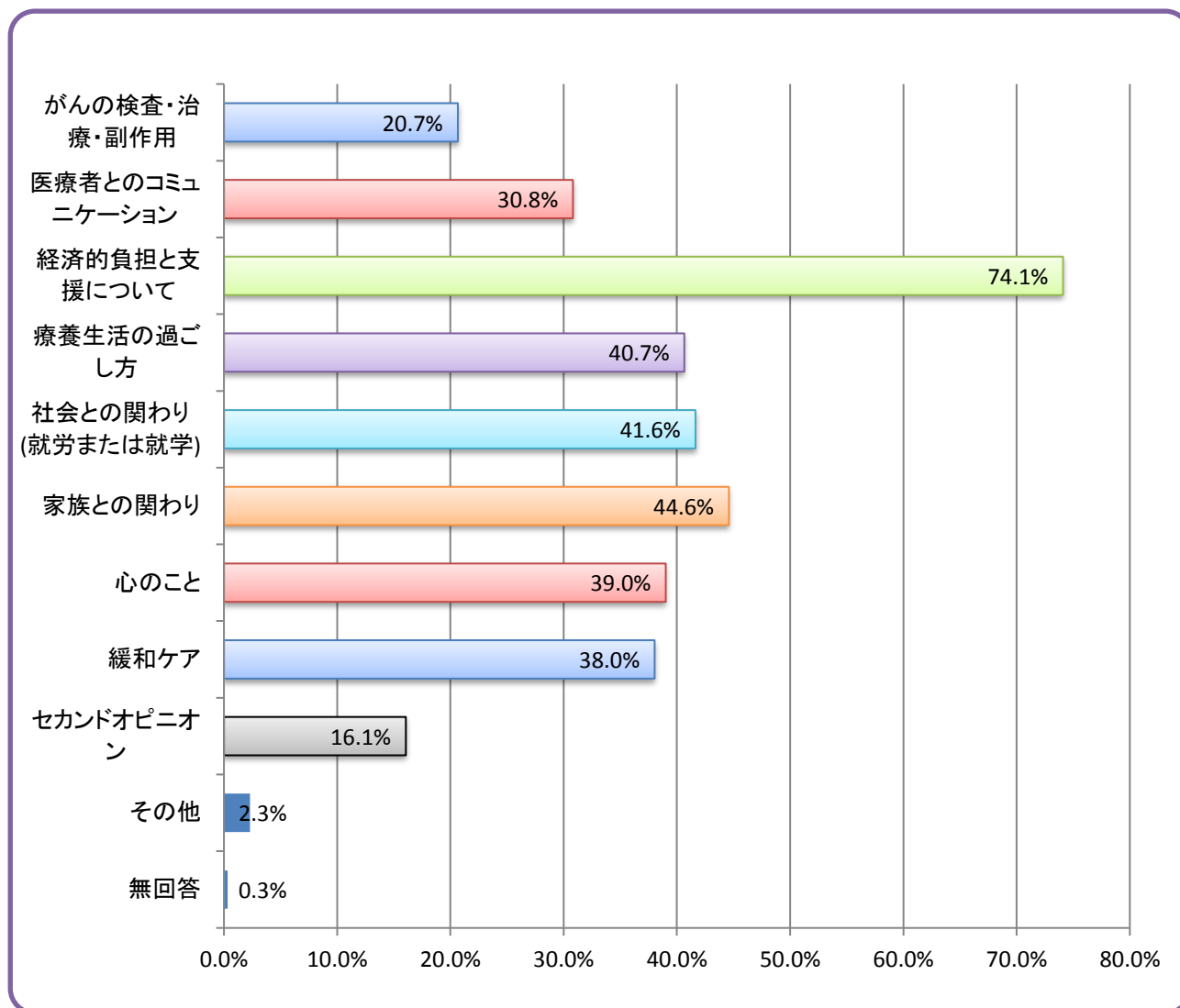
	サンプル数	ある	ない	無回答
対象	305	37.7%	62.0%	0.3%
合計	305	115	189	1

①拠点病院内医療従事者向け

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

4) 以下の業務のうち、相談支援センターに力を入れてほしい項目にレをつけて下さい。(複数回答)

「経済的負担と支援について」が74.1%、「家族との関わり」が44.6%、「社会との関わり(就労または就学)」が41.6%であった。



【その他のご意見】

現状でのトータルサポートで十分だと感じています
亡くなられた家族のケア

(実際のアンケートをそのまま記載)

①拠点病院内医療従事者向け

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

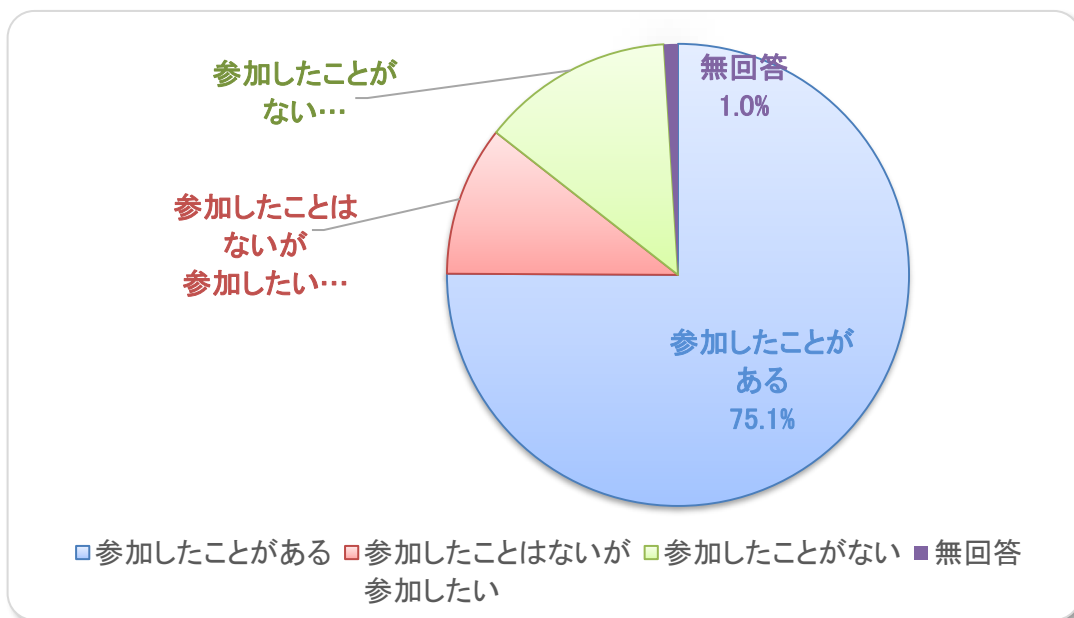
	サンプル数	がんの検査・治療・副作用	医療者とのコミュニケーション	経済的負担と支援について	療養生活の過ごし方	社会との関わり（就労または就学）	家族との関わり	心のこと	緩和ケア	セカンドオピニオン	その他	無回答
対象	305	20.7%	30.8%	74.1%	40.7%	41.6%	44.6%	39.0%	38.0%	16.1%	2.3%	0.3%
合計	305	63	94	226	124	127	136	119	116	49	7	1

①拠点病院内医療従事者向け

Q3.「がんに関する研修会等」についてお伺いします。

1) 研修会・講演会等に参加したことがありますか。

「参加したことがある」が75.1%、「参加したことはないが参加したい」が10.5%、「参加したことがない」が13.4%であった。



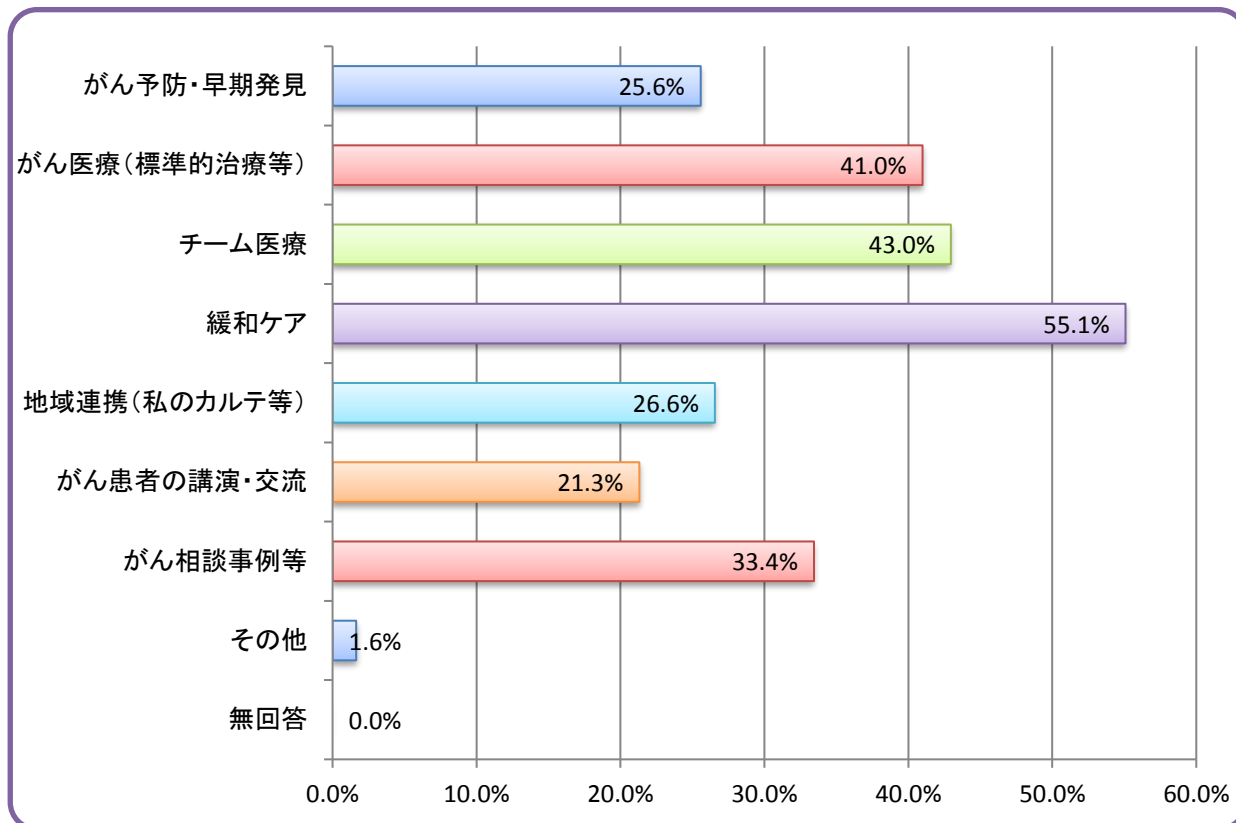
	サンプル数	参加したことがある	参加したことはないが参加したい	参加したことがない	無回答
対象	305	75.1%	10.5%	13.4%	1.0%
合計	305	229	32	41	3

①拠点病院内医療従事者向け

Q3.「がんに関する研修会等」についてお伺いします。

2)院内外におけるがんに関する研修等で参加したいと思うテーマはありますか。(複数回答)

「緩和ケア」が55.1%、「チーム医療」が43.0%、「がん医療(標準的治療等)」が41.0%であった。



【その他のご意見】

在宅医療

(実際のアンケートをそのまま記載)

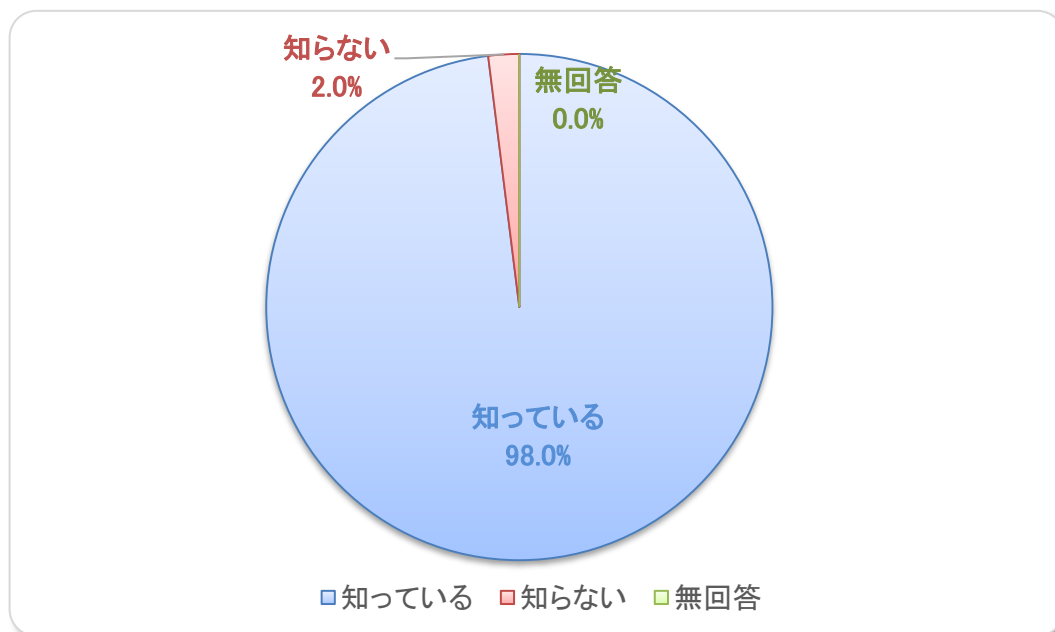
	サンプル数	がん予防・早期発見	がん医療(標準的治療等)	チーム医療	緩和ケア	地域連携(私のカルテ等)	がん患者の講演・交流	がん相談事例等	その他	無回答
対象	305	25.6%	41.0%	43.0%	55.1%	26.6%	21.3%	33.4%	1.6%	0.0%
合計	305	78	125	131	168	81	65	102	5	0

①拠点病院内医療従事者向け

Q4.「がんサロン・患者会等」についてお伺いします。

1)がん患者等の交流を目的とした「がんサロン」があることを知っていますか。

「知っている」が98.0%、「知らない」が2.0%であった。



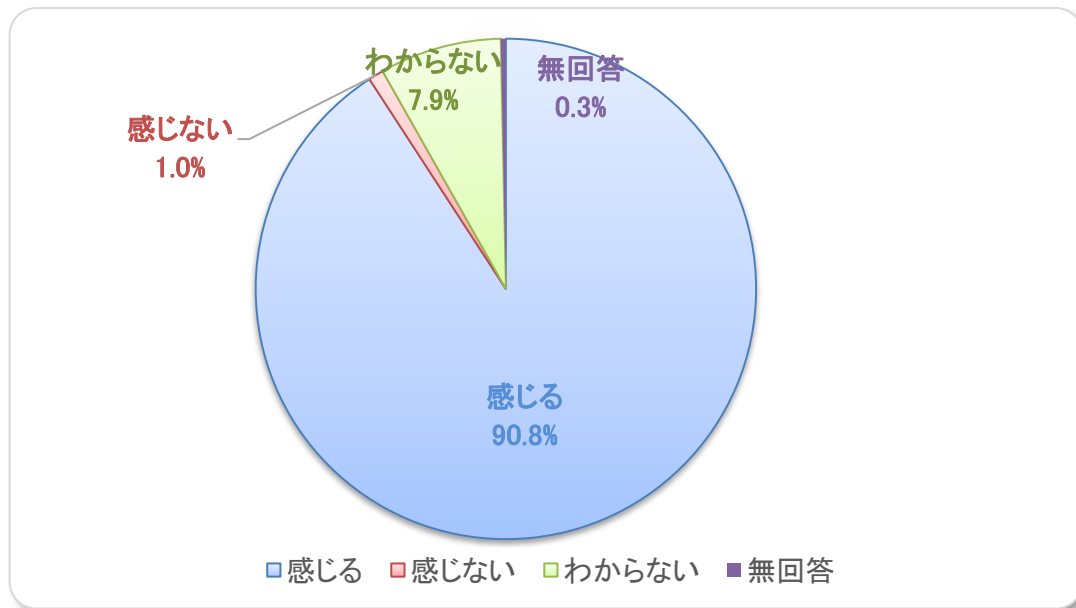
	サンプル数	知っている	知らない	無回答
対象	305	98.0%	2.0%	0.0%
合計	305	299	6	0

①拠点病院内医療従事者向け

Q4.「がんサロン・患者会等」についてお伺いします。

2)がん患者のピアサポート(がん患者同士の支え合い)の必要性を感じますか。

「感じる」が90.8%、「感じない」が1.0%、「わからない」が7.9%であった。



	サンプル数	感じる	感じない	わからない	無回答
対象	305	90.8%	1.0%	7.9%	0.3%
合計	305	277	3	24	1

①拠点病院内医療従事者向け

Q5.がん相談に関して課題等を感じていることはありますか(自由記載)

- 患者さんに関わる人が多ければ多い分医療スタッフの連携を密にしないとかえって悪い結果となる
- がんサロンについて病状などのみ話しに上がるとサロンという印象がうすれる。日頃の生活などを話しに出せる雰囲気を出すように心がけています
- 独居の方、キーパーソンが遠方の患者などの支援体制を考える時
- どの様な食べものであれば食べられるのか？食べやすいのかを把握し、調理、形態、味付け等の工夫を考えていかなければと思います。
- がん相談事業は、大いに活用していただくことで患者・家族に対するメリットがとてもあると思います。認知度がさらに増すと良いな、と思います。私たちNsも、どんどん紹介していけるスキルも必要だと感じます。
- 医療者が感じている(よく質問される)悩みや疑問以外にも、きっと誰にも言えずに抱えている気持ち等があると思うが、ゆっくり関わる時間がなく訴えのない方に対して介入できていないと感じる。そのあたりを、もっと気軽に患者・家族ががん相談支援センターに行き相談できるよう、外来でも広報や紹介をし続ける必要があると感じている。
- 緩和ケア介入のタイミング。在宅を希望されても答えられない事がある。医者との考えのズレ。患者が在宅を希望しても入院を勧められる医師も多い。
- がんを全く受け入れられない患者への対応
- がん患者の就労支援については、生活や治療に支障をきたしてから対策することが多いため、前もって介入できるようにスクリーニングなどが必要ではないかと感じています。
- がんは私病であるため、公的補助が少なく、傷病手当金の支給しか申請できない方もいるため、経済的にサポートできる社会保障制度があればと思う。(障害年金の申請ができない方に対して。)
- 心のケア、Pt対応などについて。
- どの施設でどの様な治療ができるか教えてほしい。
- 人員の不足と周囲の理解が不十分
- 相談支援を行う人材を増やすことに対しての経済的サポートが少ない
- 往診できる、又相談できる、Drがつなげてもらうと、助かります。受診するには、利用者の負担が大きいです(身心的)
- がんと診断された患者が、早い段階で利用できる様、がん相談に関してもっと広く世間に、この様な体制があるということを知らせておくことが、必要だと思う。
- 患者のがんに対して受け止め方が違うので対応・声かけが難しい
- 精神面での対応はどの医療機関でも難渋していると思います。

①拠点病院内医療従事者向け

- スタッフの教育ができていない(相談に充分対応できるか不安)
- 積極的治療を行っている間から緩和ケアを導入しておくことが患者様の苦痛軽減につながると思うが、なかなかそこまで意識が行き届かない。
- 認識不足を痛感しました。
- がん相談担当者がそれに関わる時間が少ない
- 患者と十分に関わるための時間の確保
- すべての人の痛みが軽減する日がくるのか。
- タイミング どこまで介入するか
- 内服薬による抗ガン剤治療を受けている患者は全て院外処方のため接点がなく、緩和ケアの導入が遅れたり、副作用の対応が遅れること。・多くの患者がサプリメントに手を出しているが、Dr、薬剤師が全く把握できてないこと。・患者の希望と家族の想いのすれ違いというか、環境の不備。
- まだまだ、相談していない患者さんが多いと思うので、がん患者に周知して欲しい。また、がん相談支援センターへ入りやすい(相談しやすい)環境を作って欲しい。
- 専門外の部分に関する連携
- がん患者様の就労について、職場での差を感じています。傷病手当などの他に、何か保障できるようなことはないかと考えさせられた事例に関わりました。
- 日頃はどうしても治療や業務が中心で、一人の患者さん、家族と落ち着いて話しがしたいと思っはいても、なかなかできないのが現状です。
- 治療の選択に対して日常生活のすごし方を考慮した選択ができるようなサポートや緩和ケアを早い段階から情報提供できるような、患者さんに近い窓口が充実できればと思います。
- 入院患者さんに対してもお互いに情報提供しながらタイムリーな介入がもう少しできると良いと感じる。こちらからも積極的に声をかけていく事も必要と感じます。
- 医療者ではない視点で患者、家族と関わり、患者家族のがんサバイバーとしてのサポートを強化してほしい。
- 未告知のがん患者に対して「がんリハ」を提供する時の計画書・同意書の対応。・骨転移があるがん患者のリスクがあまり周知されていない。
- 自分自身が、がんに関して、それに対するサポートシステムなどについて知識が少ないため。
- 入院中じゃなくても不安な気持ちを聞いてもらえたり、先生に聞けないこと、ちょっとしたことを聞ける窓口があるのはとても良いことだと思います。患者さんがどの様な時に利用しているのか、利用しようと思うか、把握し、一般の方が支援センターの存在を知り、利用しやすいと思われるの良いのではないかと考えます。

①拠点病院内医療従事者向け

- 整形外科などががん治療に接する機会が少ない部署では、家族支援やケモ中の看護について不十分さを感じる。患者からの副作用の質問に関してあまり詳しくないレジメの場合に情報提供や生活指導ができていない。
- 標準的治療はある程度理解できていても経済面、生活支援のことはあまり職種のせいか学ぶ機会がなく理解できておらず本当に患者の身になって接することができるのかと思うことがある。
- 在宅での食支援の難しさ、独居で高齢の方へのアドバイス等、介護保険でどのようなサービスが受けられるのか把握ができていない。
- がん専門の医療従事者を増やして対応しやすくした方が良いと思う。
- 患者数のわりには、相談が少ない様を感じる。
- がん相談を広めていくためには、どのようにしていったら良いか。情報提供の仕方など一般の方への。
- がん患者の転院や在宅療養生活の相談が、多職種で密に連携しにくい面もあり、チームでの支援に困難を感じることが多い。多職種でのカンファ等、実施できれば良いが…とも思います。
- 一人世帯(とくに独居老人)が増えてきている現状で、どの程度家族や周囲の助けがえられるのか…治療選択時や通院等の状況を把握することも重要になってきていると思います。
- あまり関わり合いがなかったが。心のケアの仕方の勉強会があったらいいと思う。参加してみたい。
- がん患者の課題はそれぞれかと思えます。告知を受けてから、治療等に移行していく中で、安心して相談できるような場が常にあると患者は助かるかと思えます。
- まだ地域の方、初めて診断をうけた方など「がん相談支援センター」のことを知らず、どこに相談してよいか心配しておられる方がいる。
- 地域連携、在宅療養におけるサポート体制
- 治療法や、緩和ケアなどについて患者さんへわかりやすく情報提供してほしい。治療費について明確な情報提供と社会資源の活用など
- 訪問診療の不足(24H対応)
- 患者さんは、自宅へ帰りたいとの希望があるが、在宅での看取りについてはご家族の不安が大きいため、患者さんの希望を叶えることがむずかしい。
- 薬価が高く、治療にちゅうちょされる方、就労支援をどこにどうやって相談したらいいのかわからないという患者もいる。医療者自体も知識が薄い為、市役所や居宅、医療がもっと情報共有しやすく地域住民が気軽に相談できる場所を皆んなで考え提供していく必要があるのではないのでしょうか…。
- 主治医に気がねすることなく、患者や家族ががん相談できているのか懸念することがある。
- 外来業務を行いながら、なかなか心のサポートができない。精神面もだが、経済面への悩みを聞かすが、自分で答えることができず、すぐ連けい室へお願いしている状況なので、知識不足を感じている。
- 医師、看護婦、相談員と、たて割りになっていると感じます。そこをつなぐ中間的役割が必要かなっと思えます。

①拠点病院内医療従事者向け

- 免疫細胞治療 妊よう性に関すること
- 放射線治療で、がん患者さんと接して言葉の使い方や接し方に心配りをしているつもりです。しかし、私自身の対応の仕方に不安を感じる時があるため患者さんへの接遇が課題と思っています。

①拠点病院内医療従事者向け

- がん患者や、その支援者の高齢化がすすみ、がん相談における内容は多岐に渡るため、キーパーソン不在などの問題で相談に苦慮することがある。
- 自分が・就労支援の介入不足・緩和ケア外来の介入不足
- 治るかどうか問われた時、データでしか答えられない事。
- 患者さんや家族に十分な社会支援に対する情報が提供されていないと思う。
- 家族が本人への告知を希望されない場合・家族や本人が病状など受け入れられない時の対応
- エビデンスマニュアルが無い事についての相談について、答えに困る事がある(chemoの方の白髪染めetc…)

(実際のアンケートをそのまま記載)